

審判上の注意事項

1. 試合はトーナメント方式で7回戦とするが、攻守交代は駆け足で行う。
ただし、投手に限り内野地域内は歩いても差し支えない。
また、監督等もマウンドへの往復は小走りでスピーディーに行うこと。
2. 危険防止の為、本塁での衝突プレイなど、コリジョンルールの適用を厳格に行う。
3. 投手と捕手について
 - (1) 投手の投球練習は初回7球(投手交代時も同様)以降は3球とする。
 - (2) 投手が捕手のサインを見る時は、走者の有無に関わらず必ず投手板に着いてみること。
 - (3) あまりインターバルが長かったり、無用な牽制に度が過ぎると、遅延行為として、ボークを課すことがある。
 - (4) 投球を受けた捕手は速やかに投手に返球すること。又、捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板を踏んで投球姿勢をとること。
5. 打者について
 - (1) 投手が投球位置にいる、いないに関係なく、速やかにバッターボックスに入ること。
 - (2) みだりにバッターボックスを外したときは、球審はタイムをかけずに、投球に対して正規に判定を宣言する。
 - (3) 次打者は、必ず次打者席(ネクストバッターズサークル)に入り、立ち姿勢で待つこと。
 - (4) 次打者席(ネクストバッターズサークル)での素振り禁止。投手も次打者席に入ること。
 - (5) バッターボックス内でベンチ等からのサインを見ること。
 - (6) コーチ以外はグラウンド内に出るはならない。但し、ボールデット・ボールを回収するものは除く。
6. 内野手間の転送球について
 - (1) 試合中の内野手間の転送球は1回以内とし、最終野手は定位置から投手に返球する。
尚、試合の進行状況や天候状態によっては審判員の判断で、途中から転送球を中止する場合もある。
7. タイムについて
 - (1) 監督は、タイムを要求しないでみだりにベンチから出てはならない。
 - (2) 試合中、スパイクの紐を意図的に結び直すなどのタイムは認めない。
 - (3) タイムの回数は、1試合中守備で3回、攻撃で3回を限度とする。尚、延長戦は2イニングに1回とする。但し、バッテリー間のタイムはカウントしない。
又、タイム時間は1分以内とする。ただし、審判が認めた場合はこの限りでない。
 - (4) 守備側からタイムの要求で試合が中断された場合は、その間投手は捕手と投球練習をしてはならない。
8. 抗議について
 - (1) 審判員に対する抗議の申し立ては、そのチームの監督、または主将、及び、当事者とする。
 - (2) 監督不在の場合は、事前に大会本部へ連絡して代理監督を申し出ておくこと。
 - (3) トラブルの際、審判員や相手側プレーヤーに手をかけるなど、万一このような事態が生じた時は退場を命じる。
9. その他
 - (1) 本塁打の走者を迎える場合は、ベンチ前のみとする。
 - (2) 試合中に雷が発生した場合は、状況を判断し、試合を中断して、全員を安全な場所に避難させ、気象などの状況を把握し、その後の処置を行う。
 - (3) ローカルルールがある場合は、各球場において、試合前に責任審判員が説明する。